

平成29年7月9日

110/157

〈実質無借金〉

平成29年も、半年が過ぎ去りました。利益の出ている企業は順調に利益を計上、厳しい企業は厳しい状況が続いています。仕事はあっても利益を出ない企業が多いです。何が問題か。

日本経済新聞に「実質無借金初の2000社超」が載っていました。現預金や短期保有の有価証券といった手元資金から、借入金や社債などの有利子負債を引いた「ネットキャッシュ」がプラスの企業です。平成28年末で2016社と前年と比べて60社増、実質無借金の企業が上場企業に占める割合は58%と前年度から1.6ポイント上昇した。3月期決算企業の平成29年3月期の連結純利益は過去最高、最高益企業が全体の3割近くにのぼったとのことで、今後ますます増えそうです。

我々の財務の目標は決算書を良くすること、無借金経営です。業績を良くする為には、設備投資、人材投資が必要である為、投資の為の資金として、自己資金では賅えず、銀行から借入もすることになってしまいます。借入はなかなか減りません。それが実態だと思います。しかし、決算書を良くすることが目的であり目標です。中小企業でも無借金経営の企業はあります。どうしたら無借金経営になり得るか、利益を出すことだと考えます。そして無駄なものは買わない。将来(未来)の為の投資(人材・研究・開拓、開発)は、絶対必要なので、こちらはケチらない。ただ同じ効果のものは安く。大きく強。企業は益々財務力が高くなります。我々は、絶対赤字にならないことが始まったと思います。

高林 幸裕